

Painting

Print

Sculpture

Kogei

Photography

## 第96回国展シンポジウム

# 「つくるとは」

—新たな潮流の中で—

シンポジスト

山村 仁志

東京都美術館 学芸担当課長

土方 明司

川崎市岡本太郎美術館 館長

岡里 崇

上野の森美術館 学芸員

監修：宝木 範義（美術評論家）

日時：2022年5月5日（木）13:00 — 15:45

会場：国立新美術館 講堂（定員45名先着順）

本シンポジウムは後日、動画配信を予定しております。詳しくは国画会ホームページに掲載いたします。

※政府・東京都の動向、感染状況をふまえて、中止にする場合がございます。変更等は国画会ホームページ（<https://kokuten.com>）でお知らせいたします。

※ご来館前に国立新美術館ホームページの「ご来館のお客様へのお願いページ」（<https://www.nact.jp/release/20201104.html>）をご確認いただきますようお願いいたします。

主催：国画会・国立新美術館

# 「つくるとは」

—新たな潮流の中で—

Photography  
Kogei  
Sculpture  
Print  
Painting

## シンポジスト

### 土方 明司 平塚市美術館 館長代理

1960年 東京生まれ。学習院大文学部学美学美術史課程卒。練馬区立美術館準備室配属。2004年平塚市美術館。日本近現代美術に関する企画展を担当。現在、平塚市美術館館長代理。武蔵野美術大学客員教授。国際美術評論家連盟会員。

主な著作に「1930年代の画家たち」大月書店（共著）「長谷川湊二郎」求龍堂（企画・監修）「画家たちの20歳の原点」求龍堂（企画・監修）「木下晋 画文集」求龍堂（企画・監修）「みずゑの魅力」求龍堂（企画・監修）「画家の詩 詩人の絵」青幻舎（企画・監修）

「リアルのゆくえ」生活の友社（企画・監修）「彫刻とデッサン」アルテヴァン（企画・監修）

### 山村 仁志 東京都美術館 学芸担当課長

1958年山口県生、東京藝術大学大学院修了。1987年から長野県信濃美術館、1991年から府中市美術館準備室。2000年から府中市美術館学芸係長、2011年同館副館長、2015年から現職。

主に近現代美術の展覧会を企画。主な企画展として、1990年「アメリカに渡った美術家たち」長野県信濃美術館、2001年「ウィーン、生活と美術 1873-1938」府中市美術館、2002年「吉田ふじを展」同館、2002年「第1回府中ビエンナーレ、ダブル・リアリティ」同館、2003年「ゾーン—不穏な時代の透視者たち」同館、2008年「パリ—ニューヨーク、20世紀絵画の流れ展」同館、2017年「現代の写真—映像を超えて」東京都美術館がある。

### 岡里 崇 上野の森美術館 学芸員

1975年栃木県生まれ。学習院大学文学部哲学科（美学・美術史専攻）卒。早稲田大学文学研究科芸術学（美術史）専攻修了。

主な担当展に、「Art of our time」（2008年）、「有栖川宮・高松宮ゆかりの名品」（2013年）、「デトロイト美術館展」（2016-2017年）、「怖い絵展」（2017年）、「ゴッホ展」（2019-2020年）などの大型展や、美術館主催の「上野の森美術館大賞展」（2006年以降）、「VOCA展」（2007年以降）、「映像表現の現在—宮津大輔コレクションより—」（2015年）、「江戸から東京へ—上野の森美術館所蔵 浮世絵・版画展」（2015-2016年）、「創作版画と新版画—上野の森美術館所蔵近代版画展—」（2018年）、「野田哲也の版画—I 日々の暮らしの中で」（2021年）、「VOCA展」と同時開催の「金氏徹平展」（2017年）、「内海聖史展」（2019年）、「鬼頭健吾展」（2021年）などがある。

## 監修

### 宝木 範義

1944年東京生まれ。早稲田大学大学院修了。世田谷美術館学芸部長（1986-98）を経て明星大学造形芸術学部教授（1998-2014）、東京藝術大学大学院講師（2002-10）等を勤める。著書に「パリ物語」、「ウィーン物語」（共に新潮選書、後に講談社学術文庫）、「梅原龍三郎」（新潮美術文庫）、翻訳に「20世紀美術」（パルコ出版）、「エミール・ノルデ画集」（美術出版社）など。画集解説に「国展とシマダイズム」（求龍堂）、「佐々木豊画集」（同）、「宮本三郎デッサン集」（ぎょうせい）など。文化審議会委員、独立行政法人国立美術館・契約監視委員長、東京国立近代美術館評議員などを歴任、現在は美術評論家。